

「ひろしまウォッチ 2025」発表 オンライン記者会見を開催します

記者会見日時：11月18日（火）15:30～16:30

参加申込締切：11月17日（月）12:00

広島県及びへいわ創造機構ひろしま（HOPE）（注1）は、被爆・終戦80年の節目にあたり、核兵器のない平和な世界の実現を目指した提言「ひろしまウォッチ 2025」を発表します。

この提言は、被爆地広島から国連の全加盟国（193か国）の国連代表部に送付し、国際社会に対して具体的な行動を呼びかけるものです。

当会見は、オンラインでご参加いただけますので、是非ご参加くださいますよう、お願いします。

日時：令和7年11月18日（火）15:30～16:30
次第：○「ひろしまウォッチ」概要及び内容説明
○質疑応答

出席者：○順天堂大学国際教養学研究科特任教授
／東京大学名誉教授 藤原 帰一 氏
○オーストラリア国立大学特別栄誉教授
／元オーストラリア外務大臣
ギャレス・エバンズ 氏
○広島県知事／へいわ創造機構ひろしま（HOPE）代表
湯崎 英彦

言語：英語（日本語の同時通訳付）

参加申込：以下のページから、（公財）フォーリン・プレスセンターへ参加をお申込ください。

<https://fpcj.jp/prlisting/hiroshima-watch-2025/>

※参加申込後、（公財）フォーリン・プレスセンターから送られるメールから、
配信サイトへアクセスください。

※参加申込締切は11月17日（月）12:00（正午）です。

ひろしまウォッチ全文：記者会見当日（11月18日（火））に、広島県 被爆・終戦80年特設ウェブサイトに掲載します。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/peace80/index-2.html>

（注1）へいわ創造機構ひろしま（HOPE）Hiroshima Organization for Global Peace）：
核兵器のない平和な世界の実現を目指し、広島県内の産学官民の様々な団体と広島県が、
令和3（2021）年4月に共同で設立し、令和7年12月に一般社団法人として業務開始します。



「ひろしまウォッチ」とは

- ・核兵器のない平和な世界を実現していくため、各国の核軍縮に関するコミットメントを問い、行動を促す政策提言です。
- ・2023（令和5）年度に開催された「ひろしまラウンドテーブル」（注2）の中で作成を提起されたもので、2024（令和6）年に初めて作成、発表され、今回で2回目となります。
- ・「ひろしまウォッチ」を作成するにあたり、データは広島県/へいわ創造機構ひろしま（HOPe）が毎年作成している「ひろしまレポート」（注3）を参照しています。

「ひろしまウォッチ」の名称について

旧ソ連圏の各国政府が、ヘルシンキ協約（1975年）を遵守しているか監視するために設立され、この地域における1980年代後半の民主化の実現に貢献した「ヘルシンキ・ウォッチ（現：ヒューマン・ライツ・ウォッチ）」にならい、各国政府のコミットメントが遵守されているか監視するものとして、「ひろしまウォッチ」と名付けました。

「ひろしまウォッチ」による国際社会への呼びかけについて

被爆地広島からの呼びかけとして、本文書を国連の全加盟国（193か国）に送付し、具体的な行動を行うよう呼びかけます。

（注2）ひろしまラウンドテーブル：
広島県/へいわ創造機構ひろしま（HOPe）は、核軍縮に向けた多国間協議の場として、平成25年（2013）年から、「ひろしまラウンドテーブル」を実施しています。

「ひろしまラウンドテーブル」では、藤原 帰一 東京大学教授（当時）を議長とし、また、ギャレス・エバンズ教授など、日本、米国、中国、韓国、豪州、ロシア等の外務大臣経験者や研究者等を参加者として迎え、令和5年度までは議長声明等の形で、令和6年度からは「ひろしまウォッチ」として、国際社会に様々な提言を行ってきました。

↓「ひろしまラウンドテーブル」の詳細はこちら

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/peace80/hope-round-table.html>

（注3）ひろしまレポート：
広島県/へいわ創造機構ひろしま（HOPe）が、毎年、核保有国や主要な非核保有国の核軍縮・核不拡散・核セキュリティ分野における各国の行動等を一定の基準に基づいて得点化、分析したものです。

↓最新の「ひろしまレポート」はこちら

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/peace80/hope-watch.html>